

# エゾトミヨ

*Pungitius tymensis*

トゲウオ科



エゾトミヨ (撮影: 妹尾優二)

## 名前の由来

蝦夷(北海道)のトミヨの意。トミヨは水田や流れの緩い小川などに住むので、止水魚(とみよ)あるいは田水魚(たみよ)に由来するとの説がある。漢字名: 蝦夷富魚

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ  
ウ

樹木

(在来種)  
草花

(外来種)  
草花

哺乳類

(鳥類)  
水辺

(鳥類)  
ワシ・タカ  
草原・樹林

## 特定種

国レッドリスト (2007) …準絶滅危惧(NT)

北海道レッドデータ…希少種(R)

## 形態的特徴

全長6 cm、背ビレに短い棘(=トゲ)が10~13本前後ある。腹ビレは1対の棘。尻ビレに1本の棘がある。

## 類似種と見分け方

イトヨ、イバラトミヨ。

イトヨは背ビレの棘が3~4棘と少ない。上から見るとエゾトミヨの尾鰭の付け根は細く窄んでいるのに対し、イトヨは半円形の隆起(隆起骨)がある。エゾトミヨの背ビレ直前の棘は短く目の直径の58%だが、イバラトミヨの同所は長く60%以上。またエゾトミヨは、イバラトミヨに比べて尾の付け根が太く、口もわずかに上向きである。



類似種のイトヨ



エゾトミヨ (撮影: 妹尾優二)



類似種のイバラトミヨ (撮影: 妹尾優二)

## 生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
遡上・産卵期				■								
孵化期				■								
幼魚期	■											
成魚期			■									
					産卵				寿命2年(メスの一部は3年)			

## 一 生

産卵期は4月上旬～7月中旬（北海道）。2年で成熟。寿命は2年、メスの一部は3年生きるといふ。

## 生息環境・分布

川の下流や湿地帯、山間の湖沼。水の澄んだところ。冬、湧水のところで群れることがあるという。

**分布：**サハリンから朝鮮半島にかけて分布。

国内では、北海道の道央、道東、道北に不連続に分布。十勝地方では、きわめて希。十勝川中流域で記録はあるが、ほとんどいない。

## 食 性

ヨコエビやイトミミズなど。動物性。

## 繁殖生態

産卵期は4月上旬～7月中旬（北海道）。産卵場所は水草の根元など。産卵期になるとオスの体は真っ黒になる。オスは植物の破片を水草の茎の中途に集め、自身が分泌した粘液でゴルフボール大の球形で通り抜けられる穴のあいた巣をつくる。その後オスは「ジグザグダンス」と呼ばれる求愛行動でメスを巣に誘い、巣穴に導く。巣に入ったメ

スは尾柄をオスの口で刺激され産卵する。

オスは数尾のメスを巣に誘って産卵させる。産卵数は30～200粒。

オスは卵に新鮮な水を送ったり、ふ化後仔魚が巣を離れるまで外敵を追い払うなどの保護をおこなう。

## 他生物との関わり

魚食性動物の餌になると思われる。

## 興味深い話

■十勝ではほとんど見られないエゾトミヨも、道東や道北の湿原では普通に観察出来る。主に湿地や湿性林内に点在する沼に生息している。

■十勝地方のアイヌ語ではトゲウオ類一般に、「ロコム」、「ラカン」、「アユシチェア」と呼ばれる。

## 配慮事項

水生植物の存在や良好な水質、緩やかな流れと岸際に生育する草が重要。また湧水や伏流水由来の小河川にも多く生息している。

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)  
草花

(外来種)  
草花

哺乳類

(水辺)  
鳥類

(葦原・樹林)  
鳥類  
ワシ・タカ

### 参考文献

「北海道の淡水魚」稗田一俊、北海道新聞社 1984  
「漁業生物図鑑 北のさかなたち」長澤和也・鳥澤雅 編、(株)日本海洋センター 1991  
「検索入門 川と湖の魚②」川那部浩哉・水野信彦 保育社、1990  
「図説 魚と貝の大辞典」望月賢二 監修、魚類文化研究会 編、柏書房 1997  
「川づくりのための魚類ガイド」北海道河川環境研究会、(財)北海道建設技術センター、2001

「山溪カラー名鑑 日本の淡水魚」川那部浩哉・水野信彦 編・監修、山と溪谷社 1989

「本別町生活文化誌 抜刷 第九編 アイヌの生活と文化」  
「昭和61年度 アイヌ文化財調査報告書(アイヌ民俗調査VI)」北海道教育庁社会教育部文化課 (編)、北海道教育委員会 1987